令和５年度 第１学期終業式 式辞

みなさん、おはようございます。

１学期終業式に当たり、今日は皆さんに、ある漫画家の話をします。

皆さんは、「さいとうたかを」という漫画家を知っていますか。
２年前、８４歳でお亡くなりになりましたが、偉大な漫画家です。
ゴルゴ１３の作者といえば、わかる人もいるでしょう。
このゴルゴ１３は、単行本の発行部数が、なんと２億冊、５３年間も続いた連載作品というから、どれだけすごい漫画家かわかると思います。

皆さんに質問しますが、この「ゴルゴ１３」という漫画の主人公の名前を知っていますか。
デューク東郷、この東郷という名をちょっと覚えておいてほしいのですが、

このような偉大な「さいとうたかを」氏ですが、学生時代は、大変荒れていた時期があったようです。

試験の答案なんかも、超いい加減で、名前も書かずに、「やってられるか」と白紙で出していたそうです。
そんな「さいとうたかを」氏を見て、その時の教師が声をかけ注意をします。
皆さんだったら、なんと注意しますか。弟や妹、あるいは将来皆さんの子どもが、そういう行為をしていたらなんと注意しますか。

その先生は次のように注意したそうです。
「さいとう、お前が白紙で出すならそれで構わない。でもお前は、自分の責任において白紙で出すのだから、せめて、せめて名前くらい書け。」
自己責任の大切さを、その先生は強く、「さいとうたかを」氏に教えたそうです。

この先生の言葉は、「さいとうたかを」氏には衝撃的であり、この先生との出会いのおかげで、自己責任というのを強く考えるようになったそうです。

「さいとうたかを」氏が、その先生にどれだけ思いを寄せていたか、それは、彼の作品の中に現れています。その先生の名前は何だと思いますか。
そう、さっきいった「東郷先生」なんよ。

ゴルゴ１３の主人公を書きながら、学生時代の東郷先生の自己責任という言葉をかみしめていたのかなと私は考えます。

そこで、皆に伝えたいのですが、
私が若松商業高校に赴任して約４ヶ月が経ちます。この間、何度か、登下校中のマナーの注意のために、集会をひらきますという校内放送がありました。
つい最近もありました。

私は、そういう集会を開くという放送を聞くと、とても残念で、残念で、
そして自己責任という言葉を考えます。

いいですか皆さん。よく聞いてください。
皆さんは、これから色々な選択があります。
たとえば、今、１年生は、来年どのクラスを選択しようか、とか
２，３年生は、卒業後の進路において、進学しようか、就職しようか、
就職する場合はどの会社にしようか。
さらに年が経ったら、結婚しようかとか、家を建てようかとか、
新しいことを始めようかとか、まあ、色々な選択をする機会があるでしょう。
そして、その選択の結果、うまくいったり、あるいは、うまくいかなかったりすることもあるでしょう。

でも、私が思うには、
それぞれの選択において、その後の責任は、全て自分がおうという強い自己責任を持って進んでいくのであれば、たとえどんな結果であろうと、その選択は、人生というくくりでみたら、正解だと私は思います。

どうぞ自己責任という意識を強くもって、過ごしてください。
皆さんが、しっかりと自己責任を持って過ごしていけば、
今以上に、今以上に、自分らしく輝く未来が、君たちを待っていると私は信じます。

どうぞ１学期終業式のこの機会、自己責任という言葉を考え、自らに問うて見てください。

私の話は以上です。